

ヴェトナム視察訪問報告書

長崎市議会議員 佐藤 正洋

【所感】

台風一過のヴェトナムは、いたるところに大きな爪痕を残していた。特に周辺地域の農地(田・畑)は、まだ冠水している所が多くみられた。大きな川と農地の高低差が少なく、元に戻るにはまだまだ時間がかかると思われた。もともと日本のように農地整備が進んでいないのが大きな原因で日本の農業との格差が大きいことを実感した。

一方、都市部は大部分が復旧していたが、道路の構造が悪く、側溝などが整備されていないので完全復旧にはもう少し時間がかかるものと思われた。

しかし、古都ホイアン市街の床上浸水などの被害を受けた商店街でも、復旧清掃を行い、商売を再開している所がほとんどで、観光客も多く賑わいを見せていた。

一日も早い完全復旧を祈念したい。

日越友好の象徴である「御朱印船」の贈呈式は、クアンナム省評議会議長、ホイアン市長をはじめ多くの市民の参加のもと、長崎県知事、県議会議長、長崎市長、市議会議長、商工会議所・商工会長などが出席して盛大に行われた。

また、本石灰町と大学生による奉納踊は迫力があり、長崎くんちの「御朱印船」をほうふつさせるもので参列者に大きな感動を与えるとともに、今後の友好交流を高めていくうえで貴重なものとなった。さらに、夜の日越文化スペース落成式イベントには安倍総理大臣とヴェトナム首相も出席され、記念碑の除幕式と御朱印船について直接説明を受けられ、触れられたことは、今後の日越交流に大きなインパクトがあり、発展が期待されるものと思う。

クアンナム省政府・議会表敬訪問では、長崎県とクアンナム省との交流を継続しているが、さらに経済交流を発展させるためにクアンナム省に不足している技術者の養成のため、若者の派遣などで日本の技術の習得を継続したい。また、日本企業、長崎の企業にもクアンナムへ進出して欲しいとの要望があった。

長崎県では、農業の分野、水産業、観光業などの経済交流を進めていくための署名式(県議会議長)が執り行われたことを契機に各分野の経済交流が推進されることを大いに期待したい。

長崎と同じく戦争の惨禍にあったヴェトナム戦争で息子9人をなくした「ヴェトナム英雄の母」の記念像と資料館を視察したが、長崎の原爆資料館と同じように戦争は何も残さず、悔いだけが強烈に残されてその被害者は厳しい生活を強いられているのがよくわかる。戦争は愚かなものとの再認識をせざるを得ない。隣接する公園に被爆クスノキ2世の苗木の植樹が知事・市長・両議長により行われたが、すくすくと育つとともに二度と戦争をすることなく、平和が続いて欲しいものである。

ホイアン市人民委員会を表敬訪問、ホイアン市は昔から日本人、中国人、オランダ人など多くの来航者があり、国際貿易港として繁栄。最盛期には1,000人以上の日本人が住んでいたといわれ、日本橋や日本式の家屋などが多くあり近親感を感じた。ホイアン市は、今から工業・商業・観光などを中心にどんどん発展していくものと思われるので、長崎も経済交流等の連携を強めていく必要があると思われる。

発展途上国のヴェトナムは、若者が多く将来の発展が大いに期待されるものと思う。また、日本の政府開発援助(ODA)の無償資金協力が生かされ、下水処理施設の整備や日本の技術提供などでトンネルや道路の整備が進み、工業を中心にますます発展していくものと感じるとともに、長崎も観光をはじめ経済交流のために積極的な施策を展開すべきと思う。